

## 市内中小企業景況調査結果（平成26年4～6月）

### 前期の反動により悪化するも業種によりバラツキあり

下 関 商 工 会 議 所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第1四半期（平成26年4～6月期）の調査結果を報告します。

- 調査時点  
平成26年6月1日
- 調査対象時期  
平成26年4～6月期状況、平成26年7～9月期見通し
- 調査回答企業数  
市内の建設業7社、製造業8社、卸売業7社、小売業9社、サービス業12社（回収率86%）
- D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）  
好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

#### 【概 況】

市内中小企業の景況をみると、前期の消費税増税前の駆け込み需要の反動もあり全般的に悪化しているものの、業種によりバラツキがみられる。建設業、製造業並びに小売業では、悪化しマイナス幅が拡大しているのに対し、卸売業とサービス業でも悪化しているものの、プラス域を確保している。

先行きについては、製造業では悪化のまま横ばいで推移するものの、その他の4業種では好転するものと予想している。

#### ●今期(26年4～6月期)の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期（26年1～3月期）と比較して、13.9ポイントの悪化となり、D Iでは $\Delta 16.3$ となっている。業種別の業況をみると、卸売業では23.2ポイントの悪化となったものの、D Iでは14.3とプラス域を確保しており、サービス業においても9.8ポイントの悪化となったものの、D Iでは8.4とプラス域にとどまっている。製造業では5.4ポイントのプラスとなっているものの、 $\Delta 37.5$ にとどまっている。小売業では8.3ポイント悪化し、 $\Delta 33.3$ となっており、建設業では28.6ポイントの大幅な悪化となり、 $\Delta 42.9$ となっている。

## 〔売 上〕

全産業で見ると前期（26年1～3月期）と比較すると42.2ポイントの大幅な悪化となり、D Iでは $\Delta 27.9$ とマイナスに転じている。業種別にみると、製造業では16.1ポイントのプラスとなり、D Iでも $\Delta 12.5$ まで回復している。建設業では85.7ポイントの大幅な悪化となり、D Iでは $\Delta 57.1$ となっており、卸売業でも76.8ポイントと大幅に悪化しているものの、 $\Delta 14.3$ となり、ともにマイナスに転じている。サービス業では43.9ポイントの悪化となり、D Iでは $\Delta 16.6$ とマイナスに転じており。小売業では、22.3ポイント悪化し、 $\Delta 44.5$ とマイナス幅が拡大している。

## 〔採 算〕

全産業で見ると前期（26年1～3月期）と比較して、14.3ポイント悪化し、D Iでは $\Delta 28.6$ とマイナス幅が拡大している。業種別にみると、製造業では17.9ポイントの好転となっているものの、D Iでは $\Delta 25.0$ となっており、小売業でも11.1ポイントの好転となっているが、 $\Delta 33.3$ とマイナス域で推移している。卸売業では41.7ポイントの悪化となり、D Iでは $\Delta 16.7$ 、サービス業では25.8ポイント悪化し、D Iでは $\Delta 16.7$ とともにマイナスに転じている。建設業では28.5ポイントの悪化となり、D Iでも $\Delta 57.1$ となりマイナス幅が拡大している。

## 〔資金繰り〕

全産業で見ると前期（26年1～3月期）と比較して、9.6ポイントの悪化となり、D Iでは $\Delta 16.7$ とマイナス幅が拡大している。業種別にみると、小売業では11.1ポイント好転しているものの、D Iでは $\Delta 22.2$ にとどまっている。卸売業では12.5ポイント、サービス業では9.1ポイントとそれぞれ悪化しているものの、D Iではともに0.0となっている。製造業では14.3ポイント悪化し、 $\Delta 28.6$ となっており、建設業でも28.6ポイントの悪化となり $\Delta 42.9$ となっている。

## ●来期(26年7～9月期)の見通し（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は $\Delta 4.7$ と、今期と比較して11.6ポイント好転する見通しとなっている。

業種別の業況をみると、サービス業では8.3ポイント好転し、D Iでも16.7とプラス域で推移する見通しとなっている。卸売業では変化なくD Iでは14.3とプラス域での横ばいとなっている。小売業では33.3ポイントと大幅なプラスとなり、 $\pm 0.0$ まで好転。製造業でも12.5ポイント好転するものの、D Iでは $\Delta 25.0$ にとどまっている。建設業では今期と変化なく $\Delta 42.9$ と悪化のまま推移するものと予想している。

## 〔売 上〕

全産業で好転を見込んでおり、全体としては今期と比較して23.2ポイントとかなり好転し、D Iでは $\Delta 4.7$ まで戻す見通しとなっている。

業種別にみると、小売業では55.6ポイントと大幅な好転となり、D Iでも11.1とプラスに転じるものと予想している。製造業では12.5ポイント、卸売業では14.3ポイントそれぞれ好転し、D Iではともに $\pm 0.0$ まで回復している。サービス業では7.5ポイント好転するものの、D Iでは $\Delta 9.1$ とマイナス域で推移するものと予想。建設業でも28.5ポイントとかなりの好転を見込むものの、 $\Delta 28.6$ とマイナス域で推移するものと予想している。

## 〔採 算〕

全産業で見ると、今期と比較して16.7ポイントと好転するものの、D Iでは $\Delta 11.9$ とマイナス域で推移するものと見ている。

業種別にみると、卸売業では33.4ポイント好転し、D Iでも16.7とプラスに転じる見込み。小売業では33.3ポイントと大幅に好転し、D Iでは $\pm 0.0$ まで回復するものとみている。サービス業では8.4ポイント好転するものの、D Iでは $\Delta 8.3$ にとどまるものと予想。製造業では変化なく $\Delta 25.0$ で推移。建設業では14.2ポイント好転するものの、D Iでは $\Delta 42.9$ と悪化のまま推移するものと予想している。

## 〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期と比較して2.4ポイントとわずかながら好転し、D Iでは $\Delta 14.3$ とほとんど変化ない見通しとなっている。

業種別にみると、小売業では11.1ポイント好転するものの、D Iでは $\Delta 11.1$ とマイナスのまま推移する見通し。他の4業種では変化ないものの、D Iでは、卸売業とサービス業が0.0、建設業 $\Delta 42.9$ 、製造業 $\Delta 28.6$ と悪化のまま推移するものと予想している。

## ●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、前年同期(25年4~6月期：20.3%)と比較して1.7ポイント減少し、18.6%の実績となり、前期実績(31.0%)と比較すると、消費税増税の影響もありやや落ち込みを見せている。

投資状況を業種別で見ると、建設業28.6%、卸売業42.9%、サービス業25.0となっているが、製造業と小売業では設備投資を行ったと回答した企業はいなかった。主な投資内容としては、機械関係、車輛運搬具、OA機器でそれぞれ4.7%となっている。来期については20.9%が予定しており、内容としては車輛運搬具やOA機器、付帯施設への計画となっている。

## ●経営上の問題点

建設業では、1位「民間需要の停滞」、2位「請負単価の低下・上昇難」、3位「材料価格の上昇」と前期(平成26年1~3月)と変化なし。製造業では、1位「原材料価格の上昇」、2位「需要の停滞」と変化なく、3位には「人件費の増加」が新たに入っている。卸売業では、前期3位だった「需要の停滞」が1位となり、前回1位だった「仕入単価の上昇」が2位となり、3位には新たに「販売価格の低下・上昇難」が入っている。小売業では、1・2位は前回と変化なく「大型店・中型店の進出による競争の激化」、「消費者ニーズの変化への対応」が入り、3位には新たに「熟練労働者の確保難」が入っている。

## 業 種 別 D I 値 表 平成26年4～6月期

	回答企業数	業 況		売 上		採 算		資金繰り		採算(今期経常利益)
		①	②	①	②	①	②	①	②	
全産業	43	△16.3	△4.7	△27.9	△4.7	△28.6	△11.9	△16.7	△14.3	△7.0
建設業	7	△42.9	△42.9	△57.1	△28.6	△57.1	△42.9	△42.9	△42.9	△14.3
製造業	8	△37.5	△25.0	△12.5	0.0	△25.0	△25.0	△28.6	△28.6	12.5
卸売業	7	14.3	14.3	△14.3	0.0	△16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
小売業	9	△33.3	0.0	△44.5	11.1	△33.3	0.0	△22.2	△11.1	△33.3
サービス業	12	8.4	16.7	△16.6	△9.1	△16.7	△8.3	0.0	0.0	0.0

① 前年同期(平成25年4月～6月)と比較した今期(平成26年4月～6月)の状況

② 前年同期(平成25年7月～9月)と比較した来期(平成26年7月～9月)の見通し

### 直面している経営上の問題点

産 業	1 位	2 位	3 位
建設業	民間需要の停滞	請負単価の低下・上昇難	材料価格の上昇
製造業	原材料価格の上昇	需要の停滞	人件費の増加
卸売業	需要の停滞	仕入単価の上昇	販売単価の低下・上昇難
小売業	大型店・中型店の進出による競争の激化	消費者ニーズの変化への対応	需要の停滞
サービス業	人件費以外の経費の増加	利用者ニーズの変化への対応	熟練従業員の確保難

設備投資を今期実施した                      18.6%

設備投資を来期計画している                20.9%

# 全産業 業況判断DIの推移

《好転》



30.0

20.0

10.0

0.0

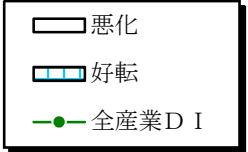
-10.0

-20.0

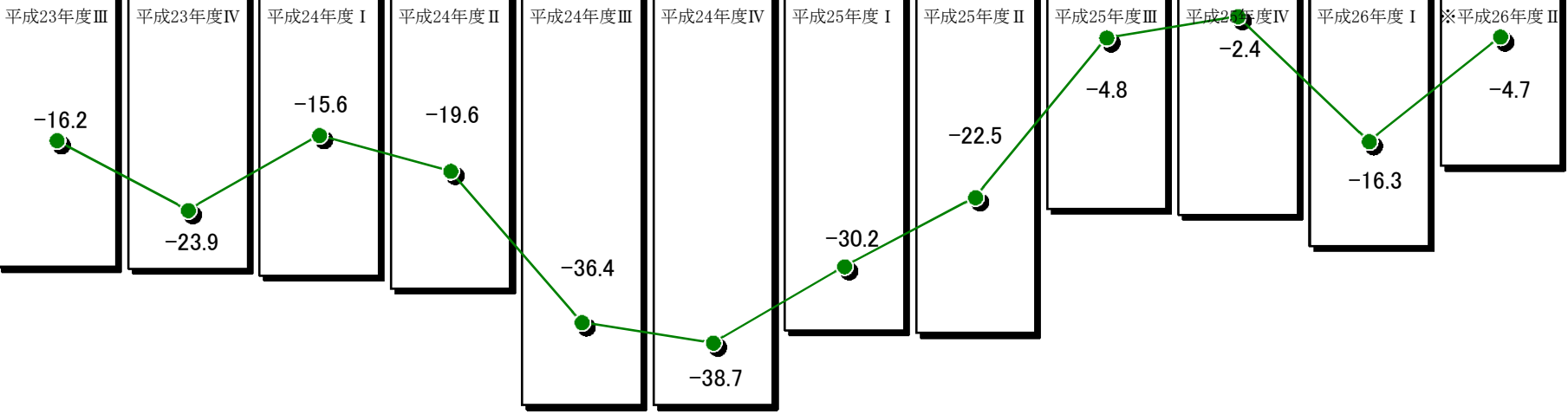
-30.0

-40.0

-50.0



《悪化》



## 【業況判断DI】

《好転》、《不変》、《悪化》の選択肢のうち、《好転》と答えた企業の割合から《悪化》と答えた企業の割合を差し引いた値。

Ⅰ…4～6月期、Ⅱ…7～9月期、Ⅲ…10～12月期、Ⅳ…1～3月期

※前年度同期(平成25年7～9月)と比較した来期(平成26年7～9月)の見通し